

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570103152
法人名	医療法人 岡田整形外科
事業所名	グループホーム 楽楽
所在地	宮崎市大字浮田3321番地 (電 話) 0985-47-1162
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原 1丁目 101
訪問調査日	平成 20年8月 27日

【情報提供票より】(20年 8月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年1 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8.25	

(2)建物概要

建物構造	木 造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	光熱水道・オムツ代 円
敷 金	☑有(50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☑無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4)利用者の概要(8 月 15 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	徳田内科 福沢歯科 岡田整形外科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園風景の残る落ち着いた所に位置している。母体の医療施設が近くにあり散歩がてらに週に2回りハビリ体操に通っている。祭りの参加や買い物等外出の機会も多く地域の人々との交流もとれている。センター方式を順次取り入れ、思いや意向の把握や気づきのケアの視点を深め、日々の記録等を通して全職員の共有をはかり、ケアの向上に活かす取り組みが行われている。スタッフの自己研鑽も理念の一つに挙げて、毎日の生活を笑顔で穏やかに過ごせるよう、ゆとりと尊厳をもって支援出来る様努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議に地元の消防団によびかけて防災訓練を行い会議の中でも効果的な取り組みについて話し合われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価及び外部評価の意義を理解し全員で自己評価をおこなって現状のふりかえりを行い、目標をたててケアサービスの向上につとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	参加メンバーが固定されたり定期的な日時が決められているわけではないが、事業所の行事にあわせて地区の自治会長・民生委員・市の担当職員・消防署の職員等に取り組みの状況の説明や改善提案をしてサービス向上にいかされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月1回のホーム便りが出されている。家族の面会時の声かけや家族会での交流もあり気軽に話せる関係がつけられている。金銭管理の確認や苦情窓口も設置されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の消防団に防災訓練に協力してもらったり、地域の祭りに出かけたり買い物や散歩で、地域の人々との交流がある。また社会福祉協議会を通じてボランティアを受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族や地域と連携をとり、利用者のこれまでの歩みその人らしさを大切に、ゆとりと尊厳をもって笑顔で穏やかな毎日になるよう支援するという内容の4つの理念を掲げ、さらに具体的なケア目標をあげて入居者一人ひとりの支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで理念を掘り下げて具体的なケアについての意見交換がなされており、毎月1回の職員全体の会議で評価をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の消防団に防災訓練に協力してもらったり、地域の祭りに参加したり地域の社会福祉協議会を通じてボランティアを受け入れている。また散歩や買い物を通して地域の人々との交流も図れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価を行い、外部評価の結果をふまえて自分ケア目標を立てて前向きに改善出来る様にしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	固定のメンバーや定期的な会議と言う訳ではないが、事業所の行事のたびに家族、地域の民生委員や社会福祉協議会の職員に取り組みの状況の報告や話し合いがなされている。	○	定期的な開催の取り組みと、外部評価について報告しモニター役として運営推進会議がさらに活性化することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が行なう外部研修会等に積極的に参加したり、社会福祉協議会や民生委員との情報交換がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りが発行されている。また家族の面会時の報告や金銭管理のサインがある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり交流が深められている。また職員全体に家族の意見や意向を聞く姿勢がみられる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来退職者が少なく事業所全体の馴染みの職員が継続的に支援できる状況である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の教育計画が作成され実践されている。職員各自に教育訓練マップがありスキルアップに努めている。研修後はミーティングでの報告もなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会の研修会で意見交換や情報交換を行なって質の向上をめざしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があった方は家族と共に見学や食事会にきていただいている。またほとんど併設の認知症専用デイサービスの利用者が入居になることが多く馴染みの関係ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な畑仕事や食事づくりの準備あとかたづけ等職員と一緒にされており職員から「先輩達に色々教えてもらって楽しい」という言葉が聞かれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れて、家族やスタッフからの情報収集を整理しながら利用者の思いや意向の把握を深めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者それぞれに担当者が決めてあり日ごろのかかわりの中で思いや家族の意見を聞きミーティングを行なって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランをたてる時は家族と共に話し合いがなされ健康状態の変化がみられた時は見直しがなされている。定期的な見直しは3か月に1回である。		毎週開かれるミーティングの取り組みを活かして、状態の変化のない場合にも月1回のモニタリングを行なって新鮮な眼で見直す取り組みに繋げてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし職員が付き添って併設病院でのリハビリ体操が行われている。また認知症専用デイサービスを行い、緊急時の宿泊など柔軟な支援ができる体制になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じたかかりつけ医と連携が図れ情報提供もなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針があり同意書もとられて、本人や家族の要望に応じる準備がされている。併設のグループホームで看取りの事例もあり、ケアについて情報交換も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重した言葉かけや対応がなされている。個人情報の記録についても他人の目にふれないように保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課の中でその人その時に応じた対応や作業のかかわりが工夫されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞き一緒に買い物に行ったり、調理盛り付け、あとかたづけをして楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望される時はいつでもまた入浴拒否される方でもタイミングをみて言葉かけをして楽しめるようになっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除、食事のあとかたづけ等それぞれの得意分野を発揮してもらって感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等気候や気温を考慮して外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、裏口、勝手口の施錠はされていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、年2回の防災訓練がなされていて、備蓄もある。地域の消防団との連絡も取り合っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養師によるバランスを整えるためのアドバイスがあり食事水分摂取量のチェックがされ、食事形態にも工夫がなされている。		
于 (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あちこちに季節の花が何気なく生けてあり、ホールには入居者の若い頃のイキイキされていた写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンスや人形等その人の思い出の品が持ち込まれており居心地よく過ごせるよう配慮されている。		